

心豊かでたくましく 共に生きる子ども



# ひらかた

7月号

令和8年6月30日

上尾市立平方小学校

校長 大野 和孝



ホームページ

上尾市 平方小学校

検索

QRコード

## 幸せの種を育てる

校長 大野 和孝

校庭の木々の緑が一段と濃くなり、夏の訪れを告げる強い日差しが降り注ぐ季節となりました。プールからは、子供たちの元気な声が聞こえてきます。4月のスタートから早いもので3か月が経ち、1学期のまとめの時期を迎えました。この1学期を振り返ると、子どもたちが大きく輝いた瞬間にたくさん出会うことができました。

特に印象深いのは、6月6日に開催された「ひらまるンピック2026」です。子供たちは、本番に向けてひたむきに練習を積み重ねてきました。団体競技の練習には、子供たち同士が声を掛け合い、励まし合いながら取り組むことができていました。本番で見せてくれた一生懸命な走りや表現(ダンス)には、胸が熱くなるものがありました。表現では、低学年のかわいらしさ、中学年の明るさ、高学年のたくましさが見事に形作られていたと思います。観覧された方もお子様の成長過程を思い返し、胸にこみ上げるものがあったのではないのでしょうか。会場準備や当日の運営にご尽力いただいた保護者、卒業生、地域の皆様のおかげで、素晴らしいひらまるンピックになりました。心より感謝申し上げます。

さて、近年、教育の世界や社会全体において「ウェルビーイング(Well-being: 心身ともに健康で、社会的に満たされ、持続的によい状態のこと)」という言葉が注目されています。私は、子どもたちが日々学校へ通い、健やかに成長していく根底には、この「幸せ(ウェルビーイング)」が不可欠であると考えています。幸福学研究の第一人者である慶應義塾大学の前野隆司教授は、人が幸せを感じるためには「4つの因子」が大切であると提唱されています。

1つ目は「『やってみよう!』因子(自己実現と成長)」です。プールの学習で「クロールの息つきができるようになりたい」と目標を立てたり、地域学習で実際に出向き、熱心に見たり聞いたりする行動がこれにあたります。ドキドキ、ワクワクしながら主体的に挑戦すること、目標を達成した喜びや成長を感じることで子供の幸福感を高めます。

2つ目は「『ありがとう!』因子(つながりと感謝)」です。ひらまるンピックで仲間を応援し、お互いを認め合ったり、会場を準備していただいた方々に感謝したりする中で育まれるものです。人との温かい結びつきは、心の安定を生み出します。

3つ目は「『なんとかなる!』因子(前向きと楽観)」です。上手くいかなくても「次はこうしてみよう」と前を向き、失敗を恐れずに楽しむ力です。困難に直面しても、悲観的にならず乗り越えられる自信が原動力になります。この強さが、子供たちの自己肯定感を支えます。

4つ目は「『ありのままに!』因子(独立と自分らしさ)」です。周り自分と比べて価値を見出すのではなく、自分自身の良さを発揮し、自分らしく輝くことです。

子供たちは、学校という集団生活の中で、この4つの幸せの種を一生懸命に育てています。まもなく、子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。学校を離れるこの期間は、子供たちがさらにこの「4つの因子」を広げる絶好のチャンスです。自由課題の中で、「やってみよう!」を形にしたり、家族としてのお手伝いを通して「ありがとう!」を実感したりする時間がたくさんあります。ぜひ、ご家庭でも1学期のお子様の頑張りをたくさん褒めていただき、エネルギーを蓄える有意義な夏休みにしてほしいと願っています。まずは、1学期の残りの日々を、まとめの時期として安全に、そして子供たちの笑顔があふれる時間となるよう、大切に過ごしてまいります。